

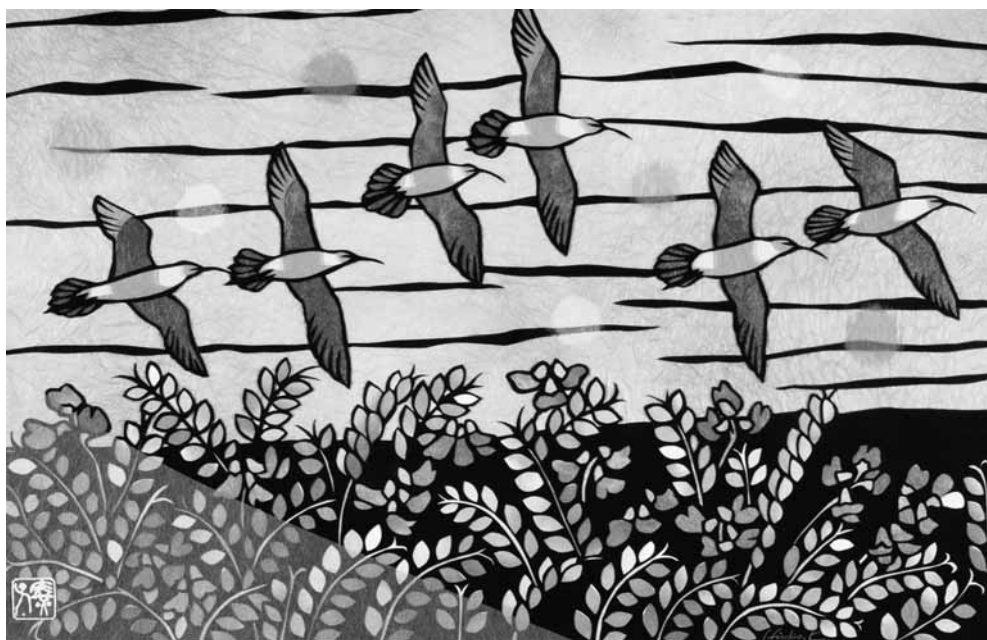


11/24 日

11:00~15:10

和白干潟・海の広場 (福岡市東区和白4丁目)

《参加無料》小雨決行、雨天中止



春の海辺 (チュウシャクシギ)

♡ マリンワールドの
タッチプールもあるよ！

干潟の生きものと遊ぼう！



第31回
♡ ラムサール条約登録をめざして！
和白干潟まつい

★おいしい食べ物の販売もあるよ～！

くわしくは2Pを見てね！！

第31回 和白干潟まつり

11月24日(日)



♥ラムサール条約登録をめざして♥

- ★今年もラムサール宣言を出します!
- ★福岡市長のメッセージが届きます!

11:00~15:10

★干潟で遊ぼう★ ●参加無料●

●会場 和白干潟・海の広場

(東区和白4丁目海岸) ※駐車場なし
小雨決行・雨天中止

■主催/ 和白干潟まつり 実行委員会

[構成団体] 和白干潟を守る会、
グリーンコープ生協ふくおか 福岡東支部

■協賛団体/ 日本野鳥の会福岡支部、博多湾会議

■後援/ 西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、
読売新聞西部本社、九州朝日放送、RKB毎日放送、
テレビ西日本、TVQ九州放送、FBS福岡放送、
NHK福岡放送局

模擬店・バザーの出店希望の方へ

イベント・模擬店・バザーの出店希望は、
10/25までに 実行委員会にお申し込みください。
干潟まつり実行委員会で決定します。
(営利目的の事業者の出店はお断りしています)

お問合わせ
お申込み

今村・090-3413-6443

★カンパなどのお願い★

第31回和白干潟まつりを成功させるために、
皆様のご協力をお願いいたします!!

1. カンパは干潟まつりの運営資金や保険料など
にあてます。

★カンパの送り先：和白干潟を守る会
郵便振替01720-4-23860

2. 他の会の機関誌にも干潟まつりの案内を掲載
したり、チラシの配布にもご協力下さい!

★プログラム★

開会式・ラムサール宣言	11:00~11:20
バードウォッチング	11:20~12:00
自然あそび	12:00~12:35
植物観察	12:40~13:15
干潟の生物観察	13:20~14:00
コンサート・マジック	12:00~14:15
紙しばいほか	
一言アピール	14:15~14:30
手をつないで	14:30~14:40
干潟の掃除	14:40~15:00
タッチプール・水槽展示	11:20~15:00
写真展・パネル展	11:20~15:00
模擬店・バザー	11:30~15:00
閉会式	15:00~15:10

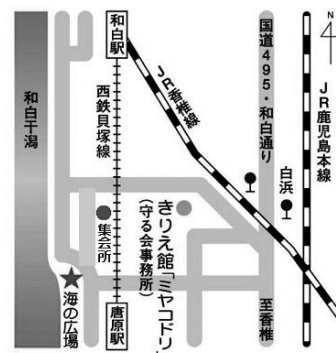


★干潟まつり ボランティア募集!!

- 前日11/23(土) 15時~ 会場整備
- 当日11/24(日) 9時~ テント設営、
運営手伝いなど

交通

- 西鉄貝塚線
唐原駅より
徒歩5分
- 西鉄・JR和白駅
より徒歩10分
- 西鉄バス
白浜バス停より
徒歩5分



★参加される皆さん、敷物を持って来てね!

★ 和白干潟の観察会のようす ★

(今村 恵美子)

★7/28 (日) Sense of Nature (センスオブネイチャー) 14名の和白干潟自然観察会



強烈な夏の日差しの中での観察会でしたが、海の中は涼しい風が吹いていました。今回のグループは、山や海など色々な自然を体験しようとの主旨で集まった小学生と幼児の子ども9名とお世話係の大人5名の集まりです。海の広場で山本さんの話を聞いてから、干潟の植物を紹介し、バードウォッチングへ。自然を体験しようと集まった子どもたちだけあり、自分たちで望遠鏡を操作して干潟のサギたちを見ていました。ウミナナや火山の噴火口に似たタマシキゴカイの巣穴などを観察し、沖合いではアサリ掘りを体験してもらいました。砂州にはコメツキガニの砂団子がびっしりあり、コメツキガニは次々につかまりました。アシ原では

熱心な子どもはカニ探しに夢中になっていました。この後、海の広場前の干潟でまとめの話へ。「干潟はどのようにして出来るのか」「和白干潟で一番大きなカニは」などの質問がありました。センスオブネイチャーのみなさんは、事前に色々勉強されているようで、子どもたちも熱心でした。(山之内)

★9/23 (月・祝) 和白干潟で「アリの見分け方研修会」(日本自然協会と共催)

前日は台風17号の強風が吹きましたが、台風も福岡を通り過ぎ研修会が無事開催されました。12名参加者の中には他県から見た熱心な方もいらっしゃいました。講師の寺山守先生の「日本のアリと外来アリの侵入・定着」の話を聞きました。ヒアリは2年前に日本に侵入が確認され、水際で食い止めるために国が動いているけれども、その後も巣が発見され、侵入から定着の状況になっているそうです。専門家だけで根絶することは無理なので、できるだけ多くの目が必要だとのことでした。アリの生態やヒアリの見分け方について詳しく教えていただきました。昼食後、和白干潟に行って、アリを採取し、鳥の観察をしました。きりえ館に戻り、海の広場で捕ってきたアリとヒアリの標本をファール（倍率20倍の顕微鏡）で見ました。最後に先生が「アリを1つの窓口として、自分の周りの環境をよくしていきましょう。生活環境を住みやすくしていきましょう。アリの話の中で1つでも2つでも面白いと思ってもらえたらいいです」とまとめられました。今まで知らなかったことをたくさん教えて頂き、世界が広がり、わくわくして充実した時間を過ごしました。(有江)



★9/26 (木) 筑陽学園中学校3年生77名と先生5名の校外理科学習



曇り空の下、時々小雨がぱらつきましたが、風がなく、蒸し暑い一日でした。午前は干潟の話とバードウォッチングでダイサギ、ミサゴ、マガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、カワウ、セグロカモメなどを観察。海岸の植物を説明した後、アシハラガニを捕獲しました。強そうなカニに、手を出せない男子生徒もかなりいました。干潟でコメツキガニを捕まえて手に載せて小さな命を感じてもらいました。昼食後、午後は9つのテーマでグループに分かれ、干潟の生きものたちを調査しました。守る会は5人のガイドが①砂地の生きもの②砂泥地の生きもの③泥地・岩場の生きもの④アオサ⑤植物を担当しました。調査の途中でモクズガニやテナガダコを見つけ、大喜びでした。生徒は調査がすんだら干潟を歩き回り、水に入りはしゃいで

いました。こういう機会はめったにないため楽しそうでした。干潟のカニ類や貝類などの生きものたちを紹介し、アサリやウミナナの浄化実験も成功しました。最後に山本さんが「自然を守る人になってくれるかな」と聞くと、みんな手を挙げていました。今日の干潟の思い出を忘れずにいてほしいと思いました。

★9/27 (金) NHK学園の和白干潟観察会

PADIジャパンが全国から募集した15名のグループです。海の広場で干潟の話をした後、望遠鏡で干潟の野鳥観察。満潮時でしたので、鳥は少なかったですが、羽を広げたカワウやスズガモなどを見てもらいました。干潟には入れませんがアシ原付近はアシハラガニがたくさんおり、カニ捕りを体験してもらいました。その後アシ原を探索、ハマナデシコ、アキノミチヤナギ、シャリンバイの実などアシ原の植物を紹介しました。砂州から望遠鏡で干潟のカモたちを観察した後、浜辺の植物を観察しながら干潟のゴミ拾い。プラスチックゴミ2袋、空き缶1袋を回収しました。植物が好きな人が多く、研究熱心な方たちでした。(山之内)



★和白干潟の自然だより★

(山本 廣子)

シバナ シバナ科。環境省の準絶滅危惧、福岡県の絶滅危惧1B類。シバナは塩性の湿地に生える多年草です。日本の北海道から九州に分布していますが、塩湿地の開発により各地で生育数が減少しています。葉は細長くて長さ10～30cmくらい、緑色で断面は半円形です。夏から秋頃に花茎を伸ばして、たくさん緑色の花が咲き、細い穂になります。和白干潟では、以前は海の広場前の海水の中に3m幅くらいの丸い群落がありました。塩浜護岸の奥の干拓された畑の側溝にも、たくさん生えていました。このシバナは唐原川河口左岸奥の泥干潟の中に移植されました。ここにはもともとシバナが生えており、移植されたシバナもうまくついていました。しかし人工島などの開発が進み、和白干潟沖で発生したアオサがシバナ群落に被さってシバナを傷めてしまい、シバナは減少しています。漢字で「塩場菜」と書き、若葉が食べられます。薬になるとも聞きました。



シバナ

モクズガニ



モクズガニ

モクズガニ科。甲幅55mm。甲は丸みのある四角形で、ハサミ脚に軟毛の房が付いており、巨大なハサミに見えます。北海道から台湾まで分布。秋に産卵のために川から河口や海に下る個体が、カニ籠で捕獲されて食用とされるそうです。観察会の時に唐原川河口でも、たくさんモクズガニが入ったカニ籠を見つけて、観察後に逃がしました。タイヤの内側などにも潜んでいて、手で探ると鋭いハサミで指を切られます。房の付いたハサミのために、特に大きなカニのように見られています。

マガモ カモ科。全長59cm。冬鳥として渡来し、和白干潟で越冬します。和白干潟では200～500羽が越冬しており、カモ類では、スズガモ、ヒドリガモに次いで多いカモです。世界的にも広く生息しており、私は韓国の内湾でほとんどマガモばかりがいる光景を見たことがあります。淡水ガモ類で、浅い水域に浮いており、逆立ちをして主に海草や植物の種子を採っています。干潟に上がって昼寝をしたりします。グェツ、グェツと鳴きます。私はこのマガモの鳴き声の出るカモ笛を、観察会で使っていて、吹くと子どもたちにとても人気です。



マガモ

★ 秋の和白干潟のしぜん情報 ★

秋にはアシに穂が付きだんだん膨れてきます。センニンソウの白い花が木々を覆っています。ハマサジやウラギクの花が咲き、ハマツツナやイソホウキギなどが紅葉。樹林帯のハゼやナンキンハゼ、ハマボウも紅葉します。アキグミやセンダン、シャリンバイやトベラなどの木の実がみのります。

今夏は雨も続きましたが、異常な高温の日も長く続きました。アオサは和白干潟沖合で育ち、8月から和白干潟沿岸に漂着してきました。特に和白川河口や奈多護岸下や雁ノ巣海岸に多く、小さくちぎれて腐り始めました。

9月にはキアシシギなどの秋の渡り鳥が立ち寄りしました。ミヤコドリは9月25日に3羽飛来、初認です。10月にはカモ類が飛来し、クロツラヘラサギも訪れます。11月には越冬するシギ類、カイツブリ類、カモメ類も渡ってきます。12月にはツクシガモが飛来して和白干潟の冬鳥がそろいます。

★「海の日記念式典」で国土交通大臣表彰

7月22日、福岡市の国際会議場で、福岡市と海の日協賛会（会長は福岡市長）とが主催する「海の日記念式典・海事関係功労者表彰」で、和白干潟を守る会は長年にわたる海の清掃活動に対して、国土交通大臣から表彰を受けました。山本代表は国交省大臣代理の九州地方整備局長から表彰状と記念の楯を受け取りました。守る会は2006年（平成18年）にも海の日表彰を受けていますが、この時は国土交通省九州地方整備局長名で表彰を受けました。



★9/12(木) アジア文化賞大賞受賞の社会学者ランドルフ・ダビッド氏干潟を視察



9月10日に福岡市主催の第30回福岡アジア文化賞の大賞を受賞されたフィリピンの社会学者ランドルフ・ダビッド氏と娘のカラさんが和白干潟の野鳥観察に来訪されました。氏はバードウォッチングが趣味で、博多湾の鳥を見たいと希望され、日本野鳥の会福岡支部長の案内で実現しました。和白干潟では山本などの案内で見て回られました。大潮の満潮時で干潟はほとんど出ていませんでしたが、砂洲にカワウが200羽の他ダイサギやコサギなどがいました。棒杭にはミサゴも止まっていました。アシ原ではアオアシシギが見え隠れしていました。カワウはフィリピンではないそうで、珍しかったようです。キンエノコロやハマボウ、ハマサシ、ハマゴウなどの植物にも関心がありました。浜辺にいたウミナナはフィリピンではスープに入れて食べているそうです。福岡市の大都会にある干潟本来の自然を持つ和白干潟のすばらしさが、ダビッド氏に伝わったようでした。（山本）

★最高裁で諫早湾訴訟、国の「非開門」差し戻し

9月13日最高裁は国が開門を命じた福岡高裁の判決を無効とする国の訴えを支持せず、再度福岡高裁に戻す判決を下しました。1997年の堤防締め切りで浄化機能を失った諫早湾の環境を一日も早く再生することが必要という当たり前のことをなぜ実現しようとしなかったのか、国の良識がさらに問われることとなりました。

★アオサのお掃除大作戦! (2019年度第1回) (和白干潟保全のつどい主催)

9月14日（土）午後2時から真夏のような強い日差しの下、和白干潟のアオサのお掃除大作戦第1回目がありました。家族連れが多く、47名参加。講師の藤井さんからのミニ勉強会、アオサの堆肥化について循環生活研究所の話の後、沖合に出てアオサをネットに入れて水切りし、そりで運ぶという作業に約40分間取り組みました。全部で110袋あり、例年に比べると少なめでした。子どもたちは大変元気で、「楽しかった」と元気に感想を語りました。初めて参加の若いお母さんは「体験して初めて生きものとのつながりが良く分かった」とのことでした。作業中も遠慮なく水分補給に来てもらうよう呼び掛けていたため、熱中症で倒れる人はいませんでしたが、ずっとテントにいた人もいました。



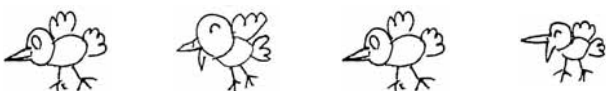
●気が付いたらあなたも電話してください!

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時

092-282-7146 (港湾空港局・維持課)

▼沖のアオサをとってほしい時

092-282-7153 (港湾空港局・みなと環境政策課)



●弱った野鳥を見つけた時→092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所 地域環境課
092-643-3367 福岡県環境部 自然環境課 野生生物係

＊ ＊ お 願 い ＊ ＊

- 干潟でのゴルフやラジコンの練習、ドローンの使用はやめましょう! とても危険です。
- 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう!



●2019年6月

- 6/1 (土) 和白干潟通信131号編集会議
- 6/8 (土) 山・川・海の流域会議 初夏の和白干潟観察会
(雁ノ巣海岸)
- 6/9 (日) 和白海岸探鳥会 (日本野鳥の会)
- 6/11 (火) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 6/12 (水) 和白小学校5年生の和白干潟観察会
- 6/13 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 6/22 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 6/23 (日) ラブアースクリーンアップ
- 6/26 (水) 和白干潟通信131号編集会議
- 6/30 (日) 第22期和白干潟の自然観察ガイド講習会

●2019年7月

- 7/11 (木) イオン黄色いレシートキャンペーン
「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 7/13 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 7/16 (火) 干潟通信131号発送会
- 7/22 (月) 海の日記念式典で国土交通大臣表彰を受ける
- 7/27 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 7/28 (日) センスオブネイチャーの和白干潟観察会

●2019年8月

- 8/4 (日) 2019年秋期シギ・チドリ調査1回目 (今津)
- 8/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 8/11 (日) 和白海岸探鳥会 (日本野鳥の会)
イオン黄色いレシートキャンペーン
- 8/24 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 8/25 (日) 2019年秋期シギ・チドリ調査2回目 (今津)
- 8/26 (月) 第31回和白干潟まつり第1回実行委員会
- 8/31 (土) 和白干潟通信132号編集会議
2019年秋期シギ・チドリ調査1回目 (博多湾東部)



干潟のつぶやき 「業者によるアサリの乱獲は止めて!」

博多湾東部・和白干潟は埋め立て計画の段階で漁業組合が漁業権を放棄し、貝も魚も自由に採れるようになり、アサリは誰でも採ってよいことになっています。以前から業者によるアサリ採りは和白干潟のいたるところで行われていました。そのせいか、次第にアサリは少なくなり、5年前からはアサリ業者は和白干潟に来なくなっていました。近年アオサの発生量も少なくなり、アサリ資源は徐々に回復して来て、今年は春からアサリがよく採れていました。この状態を察知したのか、8月に入ってアサリ業者が船で来て、ジョレンを使ってアサリ採りを始めました。9月末現在も業者は来ています。アサリを根こそぎ採ってしまう業者のアサリ採りは、アサリ資源を枯渇させて干潟の浄化作用を低下させ、和白干潟から潮干狩り光景が消えてしまうかもしれません。ジョレンを禁止するとか、持ち込む容器のサイズをバケツ程度に制限するなどの条例を作してほしいな。



アサリを採る業者

★ 9月28日(土) 国際ビーチクリーンアップ・漂着ごみ調査



国際ビーチクリーンアップは世界的規模で一斉にゴミ調査をする催しです。9月28日のクリーン作戦では、37名が参加し70袋のゴミを回収しました。海岸の人工ゴミを1時間拾い集め、その後人工ゴミを分類調査する班とアオサや自然ゴミを回収する班に分けられました。人工ゴミは33種類に分類し集計しました。特に多かったのは、今、社会で問題となっているプラスチックゴミの「ペットボトル」、その次に「食品の包装や袋」でした。調査には九産大宗像ゼミの方の協力がありました。(山之内)

★ 和白干潟の水質・砂質調査結果

表は2019年4月から2019年9月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはリン・窒素とも色見本の最低ランクであり、また、CODも「4」の月が4回あり水質は少し良い状態です。透視度は6月が少し悪かったが全体的には良い状態です。砂質調査については、表層酸化層の厚さが浜辺から10メートル地点の方が薄いですが、最近では良い方です。(山之内)

水質調査結果 (2019年4月～2019年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン (PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	4	4	4	5	5	4
亜硝酸 (NO ₂)	mg/l	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
透視度	cm	100	100	55	100	75	87

砂質調査結果 (2019年4月～2019年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
10m地点 表層酸化層の厚さ	mm	7	5	4	4	2	1
還元層の黒色度	—	14	13	13	13	14	13
150m地点 表層酸化層の厚さ	mm	27	9	10	4	3	6
還元層の黒色度	—	12	13	12	13	13	13

★ 唐原川・和白川の水質調査結果

唐原川・和白川については2015年5月からリン酸イオン、化学的酸素要求量、亜硝酸について水質調査を行っています。結果については以下の表に示されるように、いずれの値についても和白干潟に比べて汚れており、唐原川の方がやや高い値を示しています。(山之内)

唐原川 水質調査結果 (2019年4月～2019年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン (PO ₄)	mg/l	0.05	0.05	0.05	0.05	0.04	0.05
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	4	10	5	8	8	5
亜硝酸 (NO ₂)	mg/l	0.003	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005

和白川 水質調査結果 (2019年4月～2019年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン (PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.05	0.05	0.05
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	4	5	4	6	7	5
亜硝酸 (NO ₂)	mg/l	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.003

守る会問い合わせ窓口 ★ホームページ: <http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

- ◎入会／観察会(申込等) 山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663
- ◎クリーン作戦 田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460
- ◎広報／調査／定例会議 山本 廣子 Tel/Fax. 092-606-0012
- ◎干潟まつり 今村 恵美子 Tel. 090-3413-6443



【編集】 山本 廣子・山之内 芳晴・有江 圭子・田辺 スミ子・今村 恵美子
《カット》くすだ ひろこ ★次号は2020年1月に発行予定★

【編集後記】 今年は干潟まつり31回目。初めてまつり共催を企画したときに生協の理事長としてかわってから立場は変わりましたが、毎年欠かさず元気でやっています。とはいえ当初からまつりで役割を担って活躍してきた仲間の方々が今年は高齢でリタイアされたので想像以上にさびしいものがあります。昨年からはまったマリンワールドのタッチプールなどたくさんのこどもたちの笑顔が私たちの励みです。(今村)

★お知らせコーナー★

(田辺 スミ子)

★海ごみ対策地域リーダー養成講座 容器包装をみなおそう!★

～海洋プラスチックごみ削減に向けて～ ★和白干潟のゴミの話(守る会代表:山本)★

- と き: 11月1日(金) 13:30～16:30 (受付開始: 13:15)
- 会 場: 天神チクモビル 小ホール(定員50名: 予約順) 福岡市中央区天神3-10-27
天神地下街西1番出口より徒歩6分 ●主 催: ワーカーズ・ごみ問題研究会ほか
- 参加費: 1000円 ●予約・問い合わせ: TEL 090-6426-0901 (本河)

★バードウォッチング in 和白干潟2019★

- と き: 12月1日(土) 10:00～12:00
- 集 合: 和白干潟(海の広場) 東区和白4丁目海岸
- 主 催: 和白干潟保全のつどい(和白干潟を守る会他で構成)
- 申し込み: 不要 ●問い合わせ: TEL 090-8412-2663 (山之内)



★定例スケジュール★

●定例会議(10/26, 11/23, 12/21)

毎月第4土曜日12時半～14時半 守る会事務所に開催
※12月は第3土曜日

以下は参加自由です! 仲間が待ってます!

●クリーン作戦と自然観察(10/26, 11/23, 12/21)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合
※長靴があると便利 駐車場なし 12月は第3土曜日

●和白海岸探鳥会(10/13, 11/10, 12/8, 1/12)

毎月第2日曜日9時～12時 JR 和白駅前 和白公園集合
主催: 日本野鳥の会福岡支部 参加費: 一般は300円、中学生以下は無料 駐車場なし



★会員募集中!

年会費 個人 2,000円
団体 5,000円

★カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

★ボランティアへのお誘い★

和白干潟を守る会のボランティア活動に参加しませんか?

和白干潟の清掃、鳥類調査のお手伝い(車の運転や記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。

和白干潟の鳥たち(その88)

ハウロクシギ(チドリ目 シギ科/Far Eastern Curlew) 焙烙鷸「全長:63cm」



写真撮影: 三宅 僚

環境省の絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されています。ハウロクシギは和白干潟には旅鳥として、春と秋に立ち寄ります。ハウロクシギはダイシャクシギによく似ていますが、ダイシャクシギのように羽の白い部分がなくて、全体に茶色っぽい色合いの鳥です。和白干潟ではダイシャクシギは越冬しますが、ハウロクシギは、春と秋に見られます。どちらもコメツキガニなどのカニをよく食べています。鳴き声も似ていて「コーリュー、ホーイ、ホーイ」と物悲し気に聞こえます。和白干潟では2～6羽くらいで見られます。私は首が長くて頭が小さくてスタイルがいい、このハウロクシギやダイシャクシギが好きです。私の絵のモチーフに良く登場しています。今秋も会いました。(山本 廣子)